

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500130		
法人名	株式会社 神山		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	〒028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林11-1403		
自己評価作成日	令和6年12月20日	評価結果市町村受理日	令和7年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の下、利用者様のペースに合わせ楽しく共同生活が送れるように支援している。レクリエーションや季節の行事にも力を入れており、利用者様に喜んでいただけるように企画し、行事やレクリエーションの内容はInstagramにアップして、ご家族様にもその場の雰囲気が伝わるように情報の発信をしている。 健康面も、感染対策や、利用者様の体調に変化があった際は、すぐにご家族や医師に情報提供できるように記録し、職員間でも情報を共有するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線の石鳥谷バイパスから西に1kmほど入った自然に囲まれた小高い場所にある。西側の隣接地には系列の特別養護老人ホームがあり、利用者の散歩や災害時の避難場所となっているほか、勤務する看護師から助言を得る態勢もできている。楽しい共同生活を送れるように季節の節目に様々な行事やレクリエーションが活発に行われているほか、地域との交流も活発で、避難訓練には地域防災ボランティアが毎回参加して利用者の見守りに協力し、事業所では行事やレクリエーションの様子を豊富な写真とともに伝える「りんどうタイムズ」を春夏秋冬の年4回発行し、地区の全世帯に配布している。楽しみの一つの食事は、栄養士の資格を持つ社長が作った献立で職員が手づくりし、職員と一緒に食卓を囲んでいる。利用者は恵まれた立地環境を活かして自然の中を散歩したり、花見、紅葉狩りなど季節のドライブを気軽に楽しんでいる。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年3月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	[評価機関:特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、職員全員が共有出来るようにしている。毎年度、一人ひとりが目標を立て、実践できるように心がけている。	開設時に定めた理念を事業所内に掲示するとともに、職員会議やカンファレンスの際に全員で確認している。理念に基づく運営につなげるために8つの行動指針を作っている。職員は毎年度それぞれの目標を立て、実践に努め、年度末に振り返りと翌年度の目標設定を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練の際に地域のボランティアの方に参加していただき、交流を深めている。 毎月区長さんが広報を届けてくれたり、石鳥谷図書館の方が、本を貸し出しに来てくれている。	行政区長を通じ、行事や生活の様子を写真付きで四半期ごとに紹介する「りんどうタイムズ」を地区の全世帯に配布している。防災訓練では、避難した利用者の見守りや消火訓練を地域防災ボランティアが行ってくれている。毎年9月に開催される石鳥谷まつりを見学するなどして、地域との係わりあいを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や年4回発行している広報で認知症の方の介護方法や利用者の生活を紹介している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告を行い、意見や質問などあれば職員間で共有しサービスの質の向上に努めている。	コロナ禍を除き対面で2ヵ月に1回開催し、事業計画やヒヤリ・ハットの報告、行事の実施状況などを報告し、事業所と委員の間で質疑応答が行われている。委員の意見がきっかけとなって自主防災組織との連携が実現するなど、運営推進会議での話し合いがサービス向上に繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員も加わっている為、相談や意見を伺っている。	市の石鳥谷総合支所市民サービス課の職員と地域包括支援センターの職員が、運営推進会議の委員に就任している。市との連絡は最近ではZOOMやメールでのやりとりが多くなっているが、介護保険制度に関する疑問などは市役所担当課に出向いて直接伺っている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回内部研修で身体拘束について理解を深めている。実際に行っている介助が身体拘束に該当しないか話し合い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する指針に基づき年4回委員会と研修会を同時に開催し、身体拘束しないケアの認識を深めている。欠席した職員にも回覧等により共有している。転倒防止のため離床センサーを3人が使用している。スピーチロックと思われる発言があった場合には、管理者がその場で随時注意している。玄関は夜間のみ防犯のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、職員のどのような行動が虐待となるのかを共有し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、分からないことがあれば随時対応している。保険の改定や契約に変更がある場合は速やかに追加説明し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見・要望を言いやすい関係を築くよう心掛けている。出された意見や要望は出来る限り対応できるように職員間で話し合っている。	家族が面会や通院に同行するため来所した際に意見や要望を聞いている。介護計画を策定する時にも家族の意見を聞いて計画に反映させている。職員の提案で昨年から始めた事業所のLINEにほとんどの家族が登録し、事業所と家族との円滑なコミュニケーションに役立っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを取りやすい関係作りを心がけ、意見や提案を言いやすい雰囲気作りをしている。	日頃の業務や個別面談を通じ、管理者等は職員の意見や提案を把握している。職員から資格取得の希望があった場合には会社が費用を負担している。昨年から始めたLINE活用も職員からの提案により実現した。勤務時間やシフトの調整も職員の希望に沿って対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望者には個人面談行っている。気軽に話せる雰囲気作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の他に、希望者には研修を受けさせている。資格取得の費用を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで情報交換に努めている。実態調査などで他事業所を訪問際も情報交換をしている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査や入居時に、本人の言動など注意深く聞き取りや観察をし、どのような対応、対策、掛け声をするかで安心した生活が送れるかを職員で共有、検討し関係作りに努めている。認知・身体機能に合った環境作りを心掛けている。本人の要望にできるだけ応じられるように、検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時の聞き取り時に、申し込みに至る経緯や生活歴、不安事や要望を可能な限りで詳しく聞かせて頂いている。職員だからこそ、安心してお話ができるような声掛け、雰囲気作り、、対応を心掛け、信頼関係を築けるように努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査で得た情報をもとに、基本情報を作成し、全職員で共有している。ケアが必要な項目を検討し、話し合っている。入居後、2週間以内に暫定のケアプランを作成するように努めている。その都度、生活の中で得た情報を共有し、必要な支援、改善された支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ、簡単な掃除など家庭の暮らしと変わらない生活を職員と共に取り組んで頂いている。生活をするうえで、どのように過ごしたいか、どのように過ごしていきたいかをお話したり、生活の様子を見て寄り添い、関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	『知らなかった』が無いように、事あるごとに利用者の状況や相談を家族さんに連絡している。今年から担当者が作成する毎月のお便りの他に、lineやSNSの繋がりも開始した。気軽に連絡が取れたり、毎月のお便りだけでは載せきれない写真や様子が見えるようになった。家族さんより、生活の様子が見れて嬉しいとお話を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナやインフルエンザ等流行具合にもよるが、外出や外泊を気軽にしていいただけるように声掛けをしている。面会の規制が必要か入居時に確認をし、特に制限がない場合には、施設で面会をしている。希望者は友人や家族にお便りや電話をしたり、馴染みの美容室や飲食店、季節の行事等にも希望があった際には家族や職員と出向いている。	かかりつけ医への受診同行のためほとんどの家族が毎月来所しており、そのときに一緒に外食してくる利用者もある。高齢になっているため友人・知人の来所は少なくなっているが、孫が来所することがある。実家を見たい利用者には車で周辺をドライブすることもある。お盆に墓参りを希望する利用者には、事業所の車で対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各々の生活歴や習慣を聞きとり、入居してからの生活の糧にしている。利用者間の普段の会話から得意、不得意を把握し、お手伝いや作品作りの参考にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入居中の情報が必要になった際には、提供している。何か、お困りになっていることなどあればいつでも相談に乗ることを伝えている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の何気ない会話の中から、思いを把握し目的を叶えるように提案し実現に向け検討している。困難な場合も希望に近づけるように努めている。	平均介護度が2ということもあり、ほとんどの人は意思疎通が可能であるが、困難な場合は表情・仕草やどちらか一方を選択してもらう方法で希望の把握に努めている。入浴時は職員と利用者が1対1で関われる時間であり、本音が聞ける機会となっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までどのような生活を送ってきたか、情報収集を行っている。本人との面談時にも家族やサービス担当者からも伺い参考にし同じような環境で生活が出来るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のケース記録を全員で把握できるようにしている。その中で変わった事や言動があった際には随時いい方向に導けるように検討している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、家族や本人にどう暮らしたいか希望を聞き、ケアプランを作成している。その後、毎月カンファレンスを行い変化があった際は見直しを行い職員の意見を取り入れ検討し利用者の現状に合った支援を工夫している。	入居前にケアマネジャーと主任らが家庭訪問し、本人、家族と面談のうえ現状に即した介護計画を作成している。3ヵ月後に全職員のモニタリングに基づいてカンファレンスで検討するとともに、原則として6ヵ月ごとに計画を見直している。見直しに当たっては、家族に説明を行い同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の行動や変化があった際記録を残し、職員間で共有している。モニタリングを行い、ケアプランを見直し計画を実践している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からサービスの提案があった際は皆で検討している。衣類が身体に合わなくなった際は本人も一緒に買い物に出かけている。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材は地元のスーパーや産直を利用している。特別な時は利用者と一緒買い物に行くこともある。町内の図書館から毎月本を借りている。行事として、田んぼアートや案山子祭り、地元のお祭りも楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診は継続するようにしているが、家族や本人が、かかりつけ医の変更を希望する場合は助言をしている。	事業所の受診支援は、入居前のかかりつけ医を基本としているが、事業所から遠くて不便なため市内の協力医療機関に変更した人もいる。家族が同行する際はバイタルの状況などを記載した情報提供書を交付し、受診結果を職員で共有している。歯科は協力歯科医療機関の訪問診療を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々気づいた事は記録を残し、職員間で情報を共有している。看護師は在中していないが、隣接している特養の看護師と相談できる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院側へ日々の様子など情報提供している。家族にも情報を共有するようにしており、退院後の相談も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応にかかる指針を説明している。	重度化した場合の対応に係る指針を作成しており、入居時に本人・家族等に説明を行っている。現在、事業所には看護師の在籍がなく、特殊浴槽も設置されていないため、重度化した場合は入院又は特別養護老人ホームへの入居が現実的な対応となっている。医療的な処置を必要としない利用者については、事業所での看取りを行うこととしているがこれまで実績はない。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署員立ち合いの下、避難訓練を行っている。地域の防災ボランティアの方にも参加していただいている。	避難訓練を年2回消防署立会のもとで実施している。近隣に住む地域防災ボランティア数名も参加し、避難した利用者の見守りと消火訓練を行っている。避難場所は玄関前広場又は西側に隣接している系列の特別養護老人ホームを想定している。ハザードマップ上は浸水想定区域に指定されていない。備蓄は1週間分の食料のほかポータブル発電機、反射式ストーブを確保している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように言葉使いに気を付けている。	職員会議の場で人格を尊重したケアの実践を徹底している。トイレではドアをしっかり閉める、必要最小限のお手伝いをする、入浴は同性介助を基本とする、呼ぶときはさんづけするなど、利用者の人格を尊重した対応を心掛けている。日々のレクリエーション活動でも、裁縫や習字など入居前の趣味や特技を活かして楽しく過ごしていただいている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、会話の中から本人の希望、楽しみなどをくみ取れるように傾聴している。言葉で表現できない場合は表情や仕草で把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活習慣、生活状態を理解し、本人の希望も聞きながら支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで利用していた、理美容院を利用したり、本人の希望の衣類を着用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、味付けや片付けなど手伝っていただき、楽しみながら行っている。旬の食材を取り入れ目でも楽しめるように心がけている。	献立は栄養士の資格を持つ社長が考え、職員が交替で調理している。日常会話の中で利用者が食べたいものを聞いている。食事は利用者と職員と一緒に食卓を囲み、配膳や後片付けも利用者が協力している。正月や節分、敬老の日などの行事食のほか、誕生日には全員で職員手作りのケーキを頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別にその方にあった量や食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防と口腔内の清潔保持を心がけて毎食後の口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートに記入していて大体のパターンで声掛けをし、自立した排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表を確認しながらトイレ誘導している。約半数の利用者は排泄が自立している。7人はリハビリパンツとパッドを併用し、2人は布パンツでポータブルトイレを使用している。自立に向けた支援を行った結果、総じてリハビリパンツの使用数は減少傾向にあるとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や適度な運動を継続して行い便秘の予防を心がけている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴日以外も必要があれば入浴をしている。ゆず湯やしょうぶ湯など、季節に沿った入浴をしてもらっている。	1人週2、3回を基本とし、希望に応じて回数を増やしている。入浴を嫌がる利用者には、予定を変えるなど柔軟に対応している。脱衣室にヒーターを設置し、冬期に温度差が生じないように配慮している。入浴中はリラックスして歌を歌ったり、昔の苦労話を話す人もいる。柚子湯などで季節を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	のんびりと生活が出来るように、その都度状況に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別の薬のファイルを設置し薬の効果・副作用・容量の確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れ、農作物の収穫、誕生会などの行事でのおやつ作り、部屋の掃除など、各自で得意な事を楽しんでもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外に出られるような環境作りに努めている。家族の協力での外出の支援をしている。	暖かい季節は隣接の特別養護老人ホームや少し離れたソフトボール球場まで散歩したり、事業所の畑作業を楽しむ人もいる。春は町内の上町公園に花見、秋は紫波町の案山子祭りや葛丸川へ紅葉狩りにドライブしている。9月の石鳥谷まつりには毎年見学に行っている。自宅を見たいと希望する利用者がいれば、車で周辺をドライブしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防ぐため、お金の持ち込みは遠慮していただいている。買い物は家族の了解を得てから施設で購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けられる準備をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンや床暖房で温度を細目に調節している。ホールの壁には、四季折々の作品を飾り季節間を味わっていただいている。	床はフローリング、壁は白を基調とし、天井が吹抜けとなって解放感がある。大きな窓越しに外の風景を眺めることができる。エアコン、床暖房、加湿器が設置され、1年中快適に過ごすことができる。廊下には季節を感じさせる利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や相性など考慮しトラブルにならないように過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた家具などがあれば持参していただくようにしている。	居室にはベッド、寝具、筆筒、カーテンが備え付けられている。エアコンが設置され、冬場でも快適な生活が送れるようになっている。利用者は思い思いに椅子、テーブル、衣装ケースのほか、ラジオ、家族写真、枕、位牌などを持ち込み、居心地がよいように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レクで作った作品など居室や廊下に飾り鑑賞してもらっている。居室の動線の障害になるものは置かないようにしている。		